

2019 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

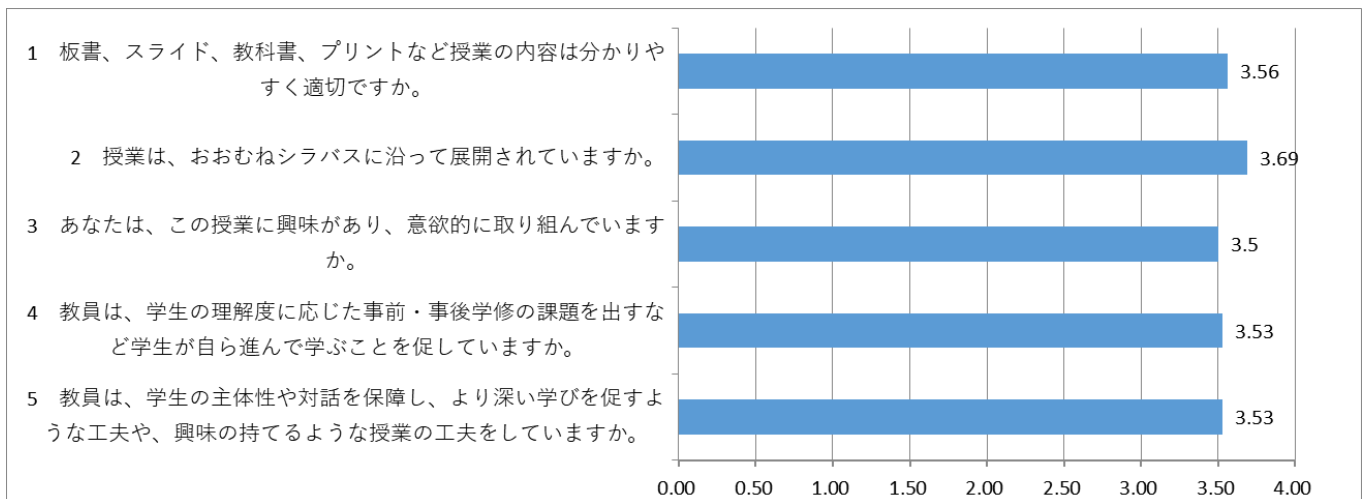
	対象科目数	実施科目数	実施率 (19 秋セメ実施率)
共通科目	48	48	100% (100%)
看護学部	42(実習別)	42(実習別 15)	100% (100%)
社会福祉学部	153	153(回答 0 が 38)	100% (100%)
リハビリテーション学部	82	82 (回答 0 が 2)	100% (100%)
計	325	325	100% (100%)

2019 年春セメスター最終評価における共通科目、看護学部、社会福祉学部およびリハビリテーション学部の授業評価の実施率は、すべて 100%であったが、回答 0 が 40 科目あった。オンライン実施改善を検討する。

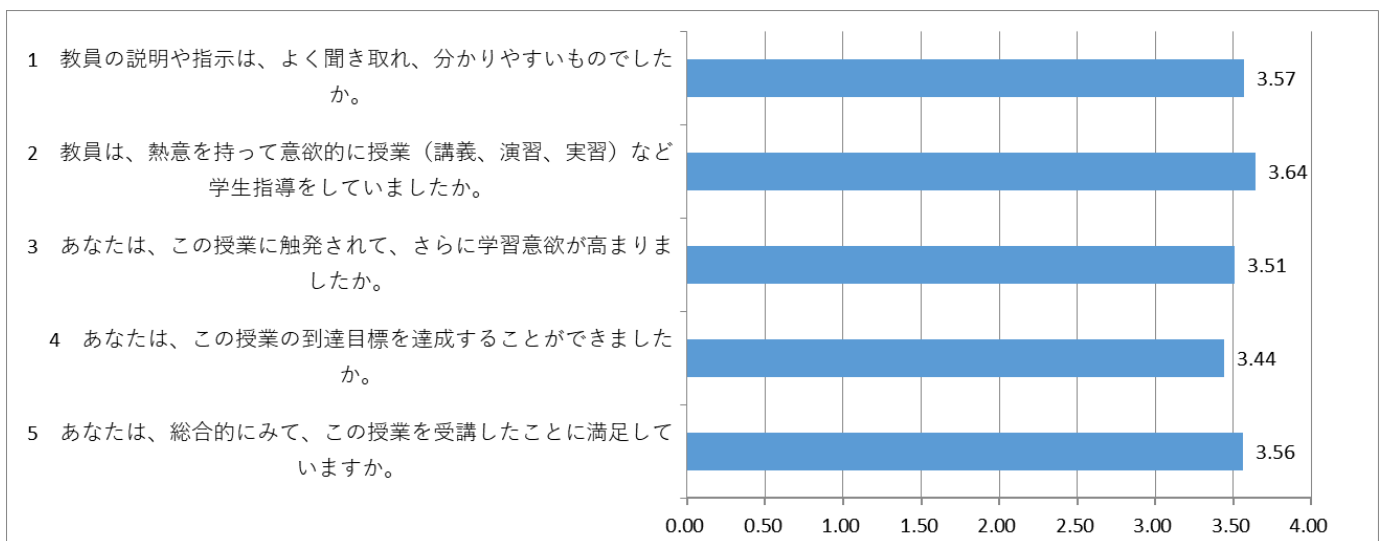
2. 授業評価結果

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果

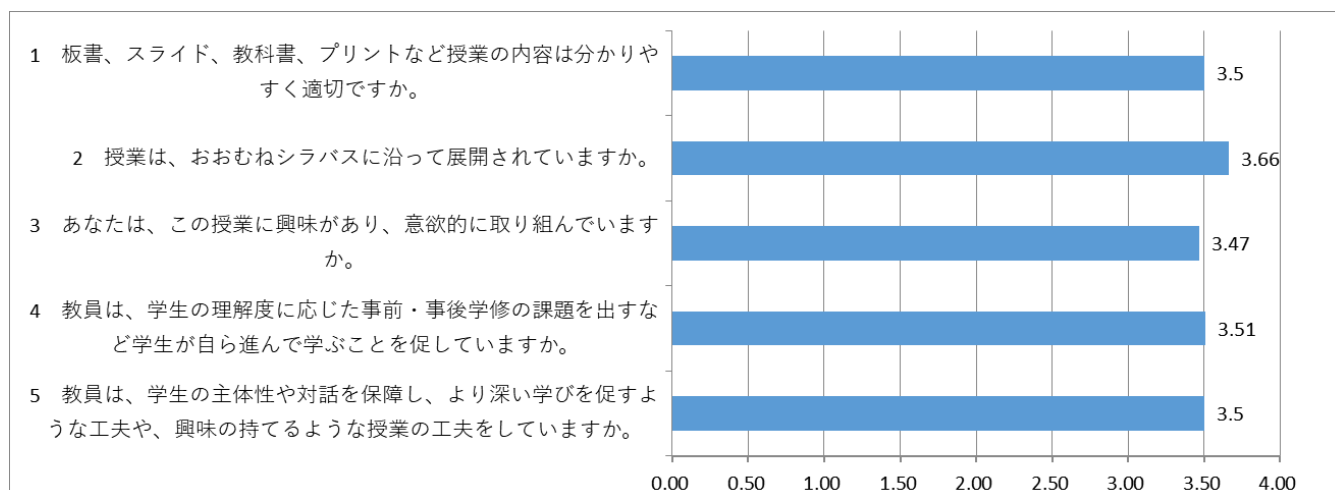


評価票の評価について「そう思う」（4 点）～「そう思わない」（1 点）と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した（図 1～図 5）

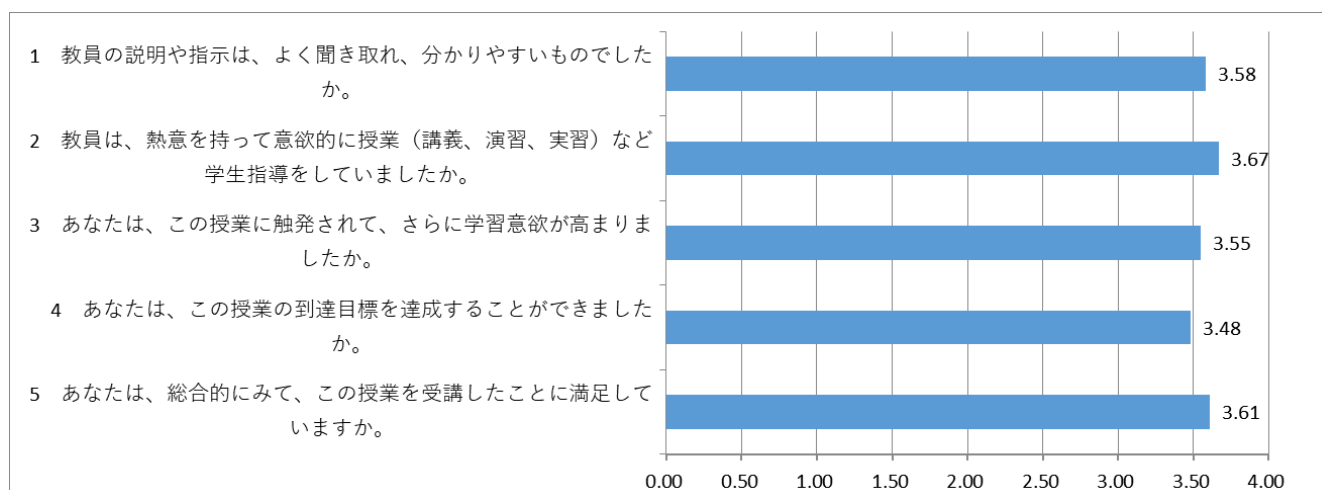
新しい方式での授業評価初年度としては、まずまずの実施率・回答率であった。各項目に関しても概ね良好な評価結果が得られている。ただし中間評価質問項目 3 と最終評価質問項目 4 については、学生自身の学修姿勢に直結するものであるが、この 2 点については他の項目に比して評価結果は高くない。学修の意欲化と到達目標達成の実感、この 2 点についてさらなる授業改善・向上を進めていくものとした。

図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果

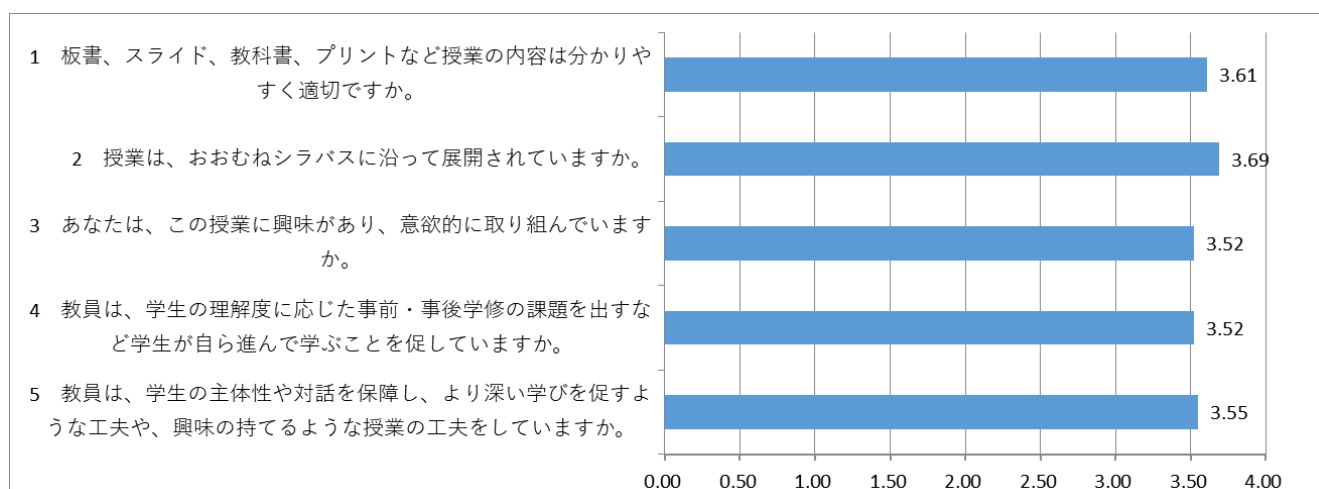


看護学部 FD 委員会のコメント

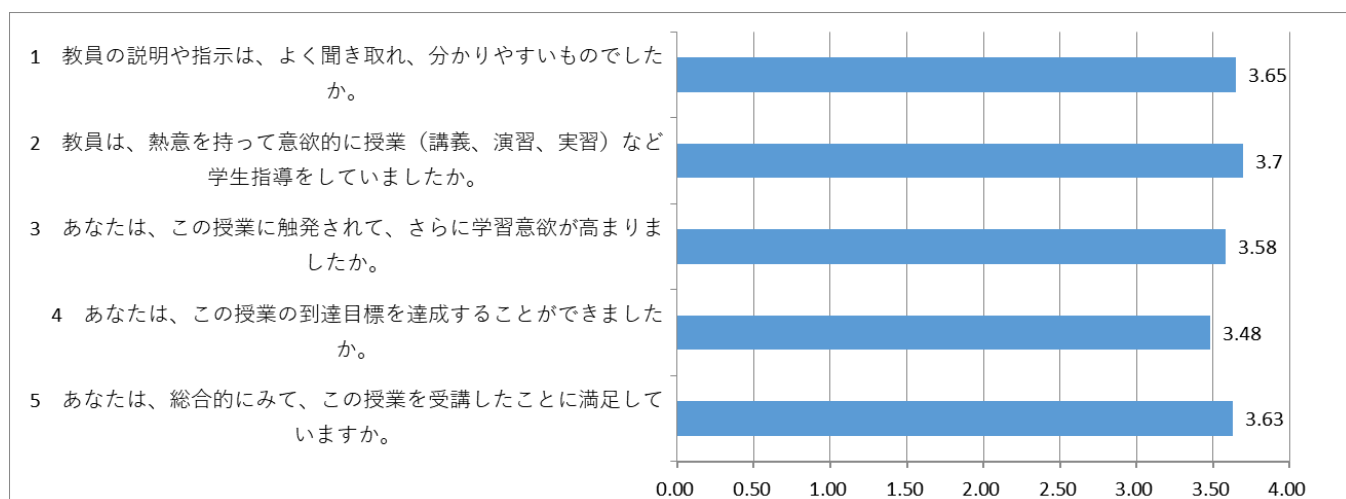
2019 年秋セメにおいて演習を含むすべての科目で授業評価を実施できた。教員の授業に関する評価項目（中間 1. 2. 4. 5 最終 1. 2）すべて 3.5 を超え、学部の大人数授業を補う教授法の努力が評価された。また、学生の学修意欲に関する評価（中間 3, 最終 3, 4, 5）は、概ね 3.5 前後であり高評価であった。特に、学習意欲については、教員学生の相互の協力によって中間 3.4 から最終 3.55 に上昇、授業の満足の項目は 3.61 と高いことから次の学修につながるよい結果といえる。ただ、学修到達目標の達成は、項目中最低の 3.48 と低いことから、主体的な学習が問われる中において一人一人の学生に対して各自の学修の到達が認識できるようフィードバック方法の工夫と徹底が必要であると思われた。

図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定

中間評価結果



最終評価結果



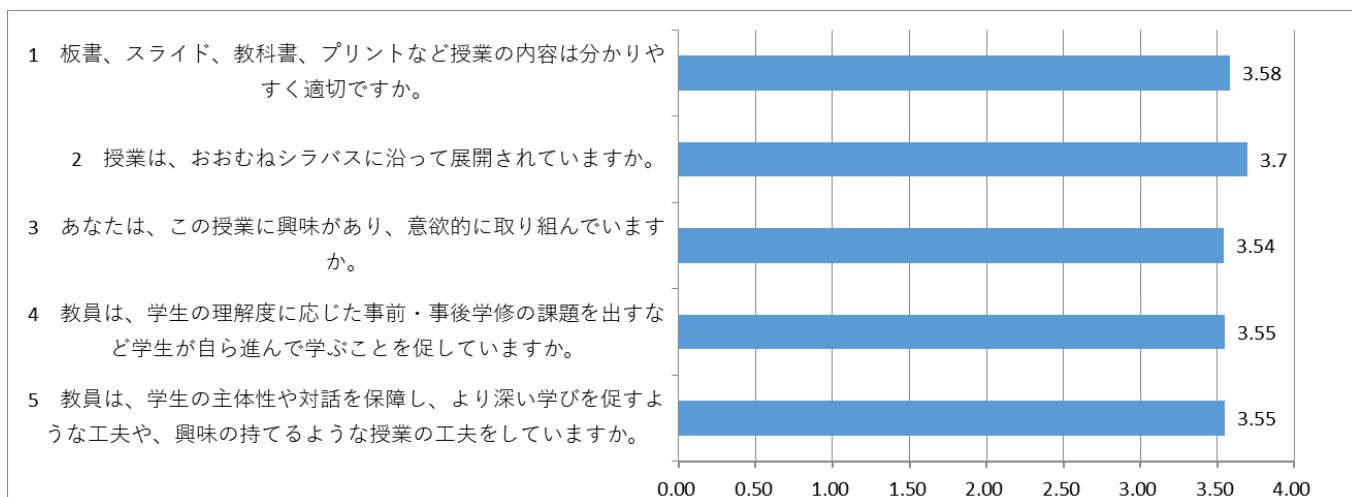
社会福祉学部 FD 委員会のコメント

中間評価と最終評価を概観すると、シラバスに添った授業や教員の授業への姿勢や熱意に対するポイントは、3.71, 3.72 と高値であり、社会福祉学部教員個々が良い授業に向けて努力している結果と推測できる。

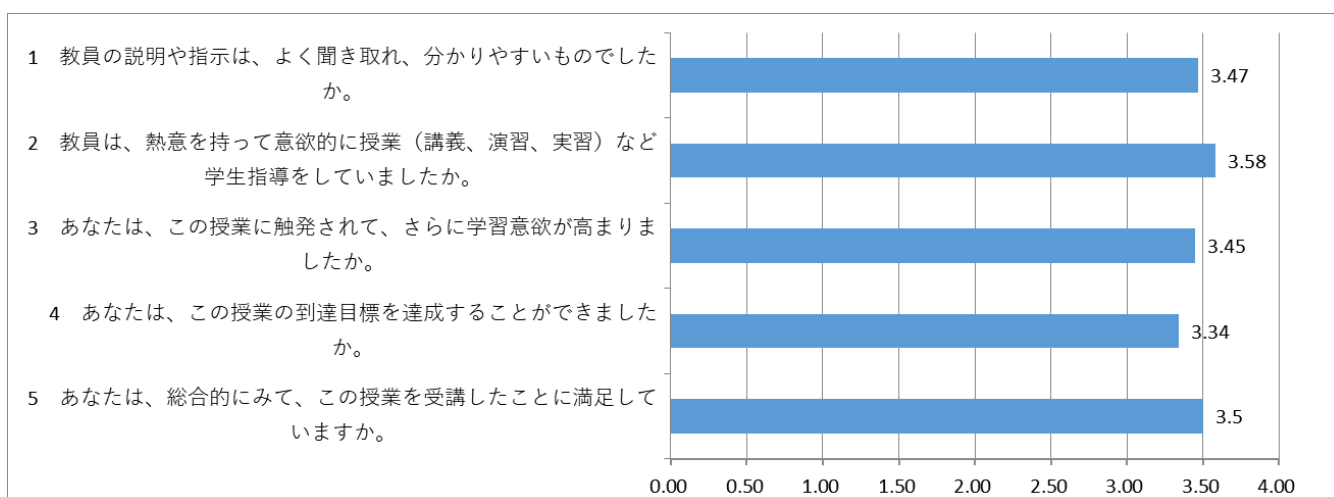
しかし、最終評価の4の結果は、3.48 と低値であり、学生自身が到達目標に達しているかの判断の曖昧さも伺え、何を押さえておけば、学生自身の力で伸びていけるかを考えて、個人のレベルに合わせた段階的かつ具体的な到達目標の設定を今後は考えていきたい。

図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果

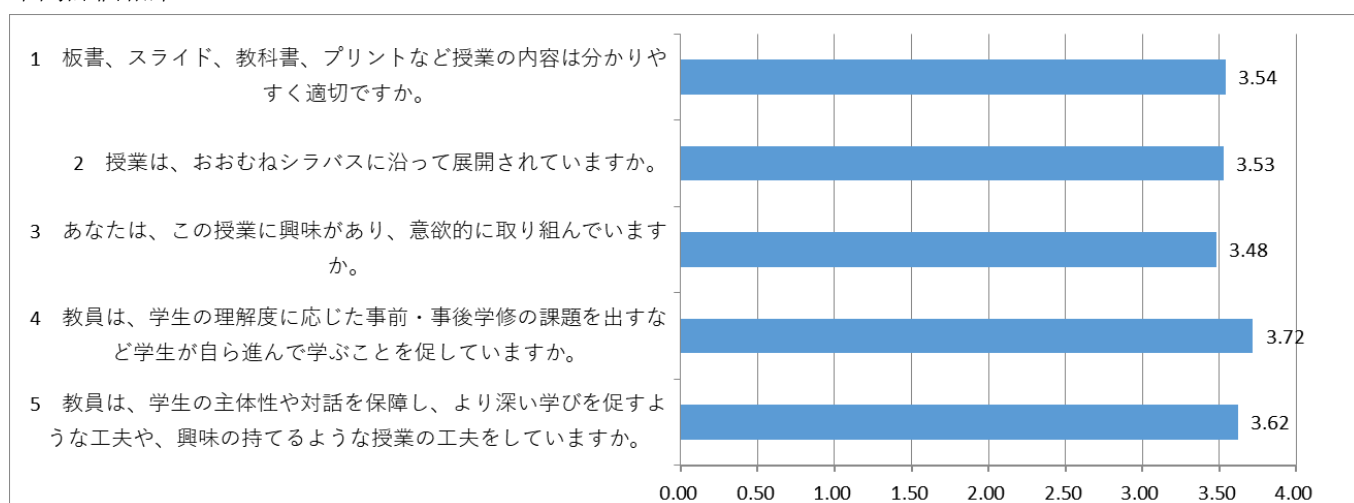


リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

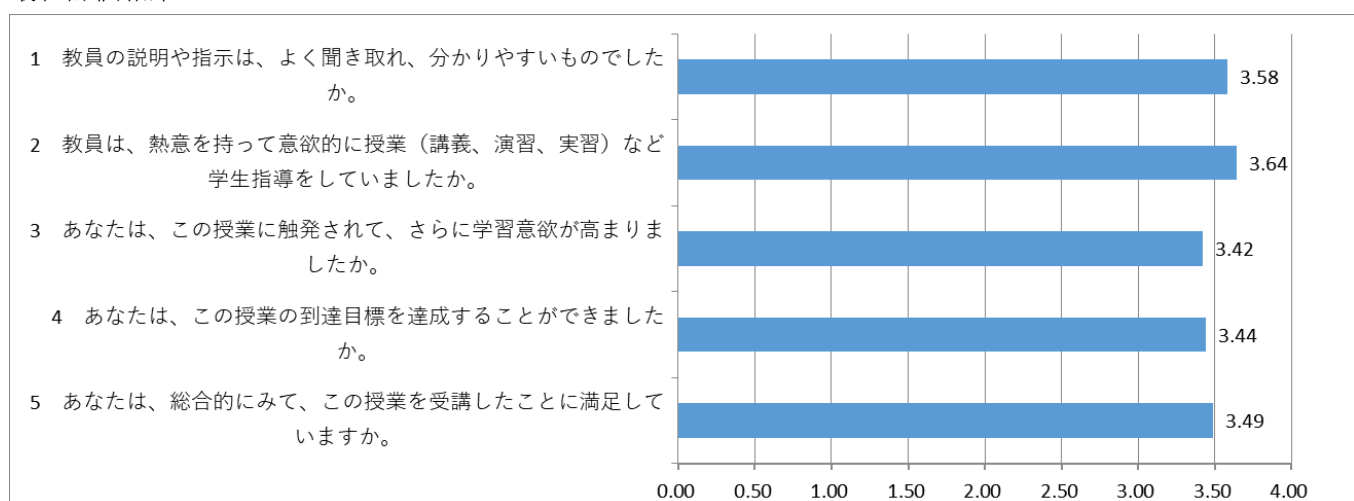
2019 年度秋セメは演習、実習を含むすべての科目で授業評価を実施することができた。中間・最終評価の結果から、教員の授業に関する評価（中間：1, 2, 4, 5 最終：1, 2）では、中間評価ではすべての項目で 3.5 を超えた。学生の学修意欲に関する評価（中間：3 最終：3, 4, 5）では、概ね 3.5 前後の評価であるが、到達目標を達成したかという項目が春セメ同様、若干、低値だった。今後は、教員の授業の進め方だけでなく、受講している学生の学修態度や意欲、さらに到達目標を意識した授業計画や内容を再考する必要があると感じた。リハ学部独自の実習科目の授業評価を検討する予定である。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果



教務部長のコメント

すべての教養・共通科目において授業評価が実施された。また、授業評価アンケートに回答してくれた学生も多かった。最終評価結果の学習意欲、到達目標、満足度については3.5を若干下回ったが、多くの担当教員は学生の主体的な学びにつながる授業を展開していたと考えている。今後も、授業評価を振り返り、さらなる授業改善につなげていくものである。